



アメリカは英語の国でしょう？

アメリカ先住民 民族語の息吹

開拓時代のアメリカでは、ネイティブ・アメリカン（NA）を東海岸から西へ西へと追いやった。チェロキー族の‘Trail of Tears’と呼ばれる苦難の強制移動は、よく知られている例のひとつである。その結果、オクラホマ州にはカリフォルニア州に次いで部族数が多く、言語数も40を数える。そのうち現在でも話者が多いのは、チェロキー語、チャクトー語など数言語に過ぎない。

1992年に、“Native American Languages Act of 1992”が定められ、NAの言語を教える資金が設定された。以来、いろいろなコミュニティが資金を獲得して、種々の言語教育に携わっている。先住民民族語教育が直面している課題は多々あるが、共通するのは次の点である：

①話者が急速に減少している、②教師が少ない、③言語資料があったとしても専門的で解読が難しい、④カリキュラムがない、したがって⑤教材がない、そして、⑥伝統的に口承文化であるため、読むもの（テキスト）がない。

したがって、NAと共同作業をする我々言語研究者、言語教育者の仕事は、「危機に瀕した言語の記録」から始まり、「言語教育者の養成」「カリキュラムと教材の作成」まで多岐にわたっている。その作業の一例を挙げてみよう。

我々は、1992年から、オクラホマとその周辺の州のNAを対象に、言語教育者養成講座を実施してきた。言

山本 昭 Yamamoto Akira （カンザス大学教授）

山本文子 Yamamoto Fumiko （カンザス大学名誉教授）



ノース・イースト大学ブローケンアローのキャンパスでの講習情景

語学入門から第一言語・第二言語習得とその過程、言語教育法、カリキュラムと教材作成などの講座を開いている。一番最近の2003年の養成講座での参加者の経歴・年齢はさまざまで、まだ幼な顔の残る18歳の青年の隣には白髪をきれいに結い上げた81歳の婦人が座り、その誰もが自分の部族の言葉の保存と発展に熱意を燃やしていた。参加者には、英語を使わずに自分たちの言語のみによるteaching planを作ることが求められ、2日間にわたって、お互いを生徒と見なすデモンストレーションが行われた。自分たちの言語をもはや日常生活の言葉として使っていない参加者も居り、中にはお年寄りに言語を習いながら参加している人たちもいた。それにもかかわらず、全員が、言語表現のみならず自分たちの部族の伝統と文化をアピールするteaching planを作り上げた。使われた言語は14言語に及んだ。

連邦政府から部族の政府、大学教師から保育所の先生、そしてコミュニティの教育者からお年寄りまでいろいろな人々が、top-downとbottom-upの両方から言語保存の炎を燃やし始めたのである。

表紙写真
について

アトランタを訪ねて

野間口 カリン Nomaguchi Karin （青山学院中部）

2003年夏、ジョージア州アトランタを訪ねた。Martin Luther King, Jr. がI have a dreamの演説をした1963年8月28日からちょうど40年目にあたっていた。

Martin Luther King, Jr. は1950年から60年代のアメリカで黒人差別と闘い、徹底した非暴力主義で公民権運動をリードした牧師だ。

アトランタのSweet Auburnに、彼の生家、通った教会、棺が安置されている池などが並んでいる。その一帯はMartin Luther King, Jr. National

Historic Siteに指定され、花々の咲き乱れる花壇や野外劇場などもある。写真の碑はRose Gardenで見つけた。Dr. Kingの文字の中に彼の生涯が凝縮されていて、思わずシャッターを切った。Visitor Centerには遺品や公民権運動の歴史なども展示されていて、その時も黒人の小学生たちが熱心に見入っていた。

今年度の選択授業で私は、3年生とともに彼の生涯について書かれたテキストを読んでいる。1学期を終えた時点でのある生徒の感想が心に

残った。

「この本は黒人側から見て書いてあるから私たちは黒人の気持ちがわかるけど、もし自分が白人だったら黒人がどう感じているかということばかりにうんざりした。だからなかなか差別はなくならないけど、だからこそ相手の気持ちを考えなきゃいけないと思った」

ことばはメッセージだ。どんな立場に立って、何を生徒たちに伝えていくのか。最も小さな一人の立場に立てたらと願う。

